婦人家庭

愛の一粒を実らせよう

〝愛の一粒〟を大きく実らせよう！昨年、飢えに苦しむアフリカ・ソマリア共和国に秋田米を送った日本ユニセフ協会秋田友の会（代表・佐々木正光さん）では、ことしも〝愛の一粒運動〟を行う。運動期間は九月一日から七日まで。同会ではこれに先立ち、秋田市でアフリカ写真展とアジア映画祭を開いて運動を盛り上げ、昨年の三・五倍の三十トンの秋田米を県内の各家庭から集めたいとしている。

インド映画「苦いひとくち」のシーン

善意の秋田米募る

日本ユニセフ協会秋田友の会

飢えに苦しむソマリア

アフリカでは大規模な干ばつや内戦、国境紛争の続発などにより一日の食糧にさえ不自由している人が四千万人もいる。特に大陸東岸の国ソマリアでは百九十万人の難民と二百万人の被災者が伝染病や栄養不良に苦しんでいる。国土の大半が砂漠で、地下資源や産業もない人々にとって最も必要なのは食糧だ。

昨年実績は8.4トン

同会は、この窮状を知った県内のボランティア活動家ら十四人で結成された。米産県に住む会員らは「毎日の食卓に並ぶ一食をソマリアの子供に食べさせよう」と〝愛の一粒運動〟を計画、昨年九月一日から一週間で八・四トンの秋田米を集めた。会員のいる秋田市や大曲市、仙北郡協和町、西仙北町、神岡町、南外村、由利郡大内町の各小・中学校、公民館などで寄贈を受け付けた。

集めた米は昨年末、横浜港からソマリアへ輸送、ことし春に国連のWFP（世界食糧計画）の手で難民キャンプに運ばれた。陸送運賃や船代は、ユニセフ本部や県内のロータリー、ライオンズクラブ、県外篤志家からの寄付に、会員らの自己負担で賄った。

写真で現地を紹介

昨年集まった〝一粒〟を、ことしは大きく実らそうと同会では目標を三十トンにして運動の輪を広げようとしている。そのためには現地の実情をよく知ってもらいたいと、写真展と映画祭を運動の前段階に据えた。写真展は十四日から二十一日まで秋田市の県児童会館（きょう十五日は休館）で開かれている。「難民」「子供」「栄養」などテーマ別に写真を構成し、難民はなぜ生まれるか、その動向や背景にある南北問題などが分かるようにしている。

映画祭は二十、二十一の両日、午後一時から七時まで同会館で開く。上映するのは「苦いひとくち」（イギリス、九十二分）、「われわれはフィリピン人」（フィリピン、百三十五分）、「川のほとり」（スリランカ、百三分）の三本。国際交流習慣、社会が抱える問題などを知ることから始まるとの認識から、三本のアジア映画上映を企画したという。写真展、映画祭とも無料。

また、同会では、県内八十の小・中学校、公民館、〝愛の一粒運動〟ポスター掲示施設に設置しヤンプの写真パネルを送り、収穫段ボールまで。連絡各学校の児童から感想文を寄せてもらっている。感想文は、自分らは不自由ない生活をしているのに、なぜ世界では食事にも事欠く人たちがいるのかを子供なりに考えている。同会ではこの感想文を編集して「往復チケット・秋田と世界」の発行を計画している。ただ写真を見るだけでなく、第三世界の正しい姿を理解してもらい、秋田からのメッセージを送るためだ。

国際理解に役立つ

二年目を迎えた〝愛の一粒運動〟は、単に米を送る運動から県民の国際理解の視野を広げる役割も果たしつつある。代表の佐々木さんは「九月の運動期間に向けて県民意識を盛り上げたい」と話している。

（善意の米は封筒などに詰め、県内の小・中学校、公民館、〝愛の一粒運動〟ポスター掲示施設に設置しヤンプの写真パネルを送り、収穫段ボールまで。連絡先は仙北郡西仙北町刈和野

0187(5)2626）

No.10